

令和4年度市内用水路に関する地域懇談会報告書

1 開催日時及び開催場所

第1回	： 令和4年12月	4日（日）	午前10時～11時	上宿公民館
第2回	： 令和4年12月	4日（日）	午後1時30分～2時45分	中央公民館
第3回	： 令和4年12月	7日（水）	午後7時～8時	天神地域センター
第4回	： 令和4年12月	10日（土）	午前10時～11時	鈴木公民館
第5回	： 令和4年12月	10日（土）	午後1時30分～2時30分	上水南公民館
第6回	： 令和4年12月	14日（水）	午後7時～8時	大沼公民館

2 参加人数

第1回	1名	第2回	14名		
第3回	0名	第4回	2名		
第5回	2名	第6回	4名	合計	23名

3 参加者意見

（1）広報についての意見

- ・古くから住んでいる市民は知っているが子どもたちは知らない。学校等において子どもたちへの周知が必要。
- ・看板が少ない。市民に周知できるような看板をもっと設置すべき。
- ・市報等において用水路に関する考えや詳細な事業等の周知を行うことが大切。
- ・活用計画の進捗状況について、中間報告等によって市民が確認できるよう情報発信してほしい。
- ・用水路の啓発を含めた懇談会のようなものを定期的に行ってほしい。
- ・市長とのタウンミーティングにて用水路についての話がでた。それに対しての市の見解や進捗状況の報告してほしい。
- ・流せる用水路はできるだけ流してほしいが、難しいということであれば緑道として整備してほしい。ただし、先人たちが開設した用水路であるため、看板を設置したり、子どもたちに知ってもらえるようにしてほしい。
- ・歴史を知るということは大切なことである。
- ・小学生を対象に、看板等を活用した用水路をめぐるツアー等を行い、感想文を提出してもらい、賞をあげてみたら。
- ・環境整備や親水整備も良いが、情報発信が大切である。シティーセールスを行う上で、用水路は大きな魅力である。
- ・流れない用水路については、ここには用水路がある旨、看板等で周知してほしい。
- ・整備されていれば、水がなくても用水とわかる。

- ・愛称の看板の近くにも歴史等がわかる案内看板を設置してほしい。

(2) 市民協働についての意見

- ・地域住民の協力をもらわなければいけない。
- ・行政主導のもと、市民を巻き込んで維持管理が行えるよう取り組んでほしい。これまでは自治会等の団体ばかりに声がかかり、個人として参加する機会がない。個人的に取り組む意欲のある市民に機会がほしい。
- ・近隣住民や企業をどう巻き込んで維持管理をしていくかが大切。
- ・協働を行うにしてもまずは関心を持ってもらう必要がある。
- ・クリーンデーで西側の清掃をやっていたが、東側の住民は参加しない。住んでいる地域で行われていればぜひ参加したい。

(3) 維持管理・整備についての意見

- ・手入れをしすぎではないか。綺麗な景観であることも大切だが、昔ながらの景観を残すことも大切。
- ・植生管理を怠るとゴミが捨てられたり、除草剤を使用する周辺住民がでてくるため、維持管理をしっかりしてほしい。
- ・道路から見える護岸のほとんどが安全鋼板(鉄の板)と単管(鉄の棒)で整備されており、景観が悪い。場所を選定し、通行する人から見える場所は木や擬木など景観から整備すべき。
- ・水を流れるところのみ整備をし、水がないところは緑道として整備し、安全鋼板や単管は撤去すべき。
- ・流水のない用水路については、エリアを限定して循環方式等で人工的に水を流すべき。
- ・時期を限定しての流水は生物多様性の観点から賛成できない。
- ・暗渠になっている場所にも用水路が流れていることがわかるように方法を考えてほしい。
- ・子どもが転落しないよう安全対策を強化してほしい。
- ・水が流れたり止まったりすると、そこに住む小魚が死んでしまう。逃げ場になるような場所は作れないか。

(4) その他の意見

- ・用水路を防災にいかしてほしい。トイレに用水路の水を活用するなど、検討してほしい。
- ・宅地開発と一体で親水整備を行うような条例改正も含めた検討をしてほしい。
- ・用水路の不適切な使用(勝手に橋を架けてバイクを置く等)をやめさせる事で、景観等を確保できるのではないか。
- ・ボランティアで草刈り等を行う場合の腕章等があるとよい。また、地域の住民を巻き込んでいくことが大切。また、個人宅の裏手を通っていて、プライバシーの問題はあるが、顔

見知りになれば入っていけるのでは？

- 水を流すことが目的ではなく、市内に用水路があることの意味、歴史的背景を考えたうえで将来のあり方を検討してほしい。また市民への周知も行ってほしい。
- 売り払いについては極力さけてほしい。
- 小平市の魅力の1つであるために大切にしてほしい。